



指導者のための勉強会

2011. 4. 20.

Teaching Socially Appropriate Language.
Pragmatics (語用論)の指導の重要性とその教え方について。



講師 愛場 吉子先生

「文法や意味は正しいはずだけれど、この表現はこの状況、相手、内容に本当に適した言葉だろうか?」

「自分の意図は、正確に相手に伝わっているのだろうか?」

そんな不安を抱いている第2言語学習者は非常に多いと言われます。

場面、文脈に合わせて、社会的、文化的にふさわしい表現を使いこなす力 (pragmatics) を教える

メリット、及びその効果的な教授法についてご紹介します。今回は中、高校生を対象に使える

ロールプレイも準備します。(クラスメートにノートを貸してくれるよう頼む / 先生に遅れたこと

を謝る / 友人に提案・アドバイスする / いつも時間に遅れる友人に文句を言うetc.)

例えば、「～したほうがいい。」と何かを提案するにしても、「you should～」だけではなく、相手が

友人か、親か、先生かによって、また提案する内容によって

「you might want to / I recommend / I suggest / why don't you / how about ~ / I think you

should...」 など様々な可能性があります。

これらバリエーションからもっとも適したものを使うことで、本当に意図したことが伝わるのだ、

ということは中学生や高校生にも十分理解できることだと思いますし、その先の社会生活でも

とても大事になってくるスキルだといえるでしょう。

プロフィール: 愛場 吉子

コロンビア大学大学院(TESOL 修士プログラム) 修了。

現在、(株)アルクの英語スピーキング講師として企業、大学等でレッスンを実施する傍ら、

アルクスピーキング試験(SST・TSST)の試験官・評価官業務に従事。ESAC(英語学習アドバイザー)

特定非営利活動法人日本キャリア開発協会認定 CDA(キャリアデベロップメントアドバイザー)